

2026年度日系社会研修 コース概要

No	35
所管センター	四国
分野	日本式経営
研修コース名	中小製造業の企業経営者に学ぶ日本の経営管理
受入人数	10
受入時期	下半期
来日	2026年10月7日（水）
帰国日	2026年11月5日（木）
提案団体	特定非営利活動法人グローカル四国
提案団体ウェブサイトアドレス	なし
研修員必要資格	資格は特にありませんが、応募条件として、企業経営者・経営幹部、管理職の方々とします。
研修員に必要な実務経験年数	実務経験1年以上
研修使用言語	日本語 英語
日本語能力（JLPT目安）	N5
英語能力	英語での資料読解、発表、レポート作成可
研修目標	「従業員を育成し、大切に経営」を実践している会社は、一般の会社とどこが違うのか、なぜそのような経営が業績にも結び付くのかなどを研修員が理解し、優良企業の「経営管理手法」「人材育成の仕方」など具体的に即実践可能な経営ノウハウを習得し、実践計画を作成する。
期待される成果（習得する技術）	1. 研修員が「従業員を育成し、大切に経営」を実践している会社の強みを理解することで自国企業との差異を認識し、改めて「自社の強み」を明確にすることができる。 2. 研修員が実践企業の実態を徹底研究することで、「日本的経営の特色」や「従業員を大切に経営」、「5Sをベースにしたムダの削減」など「経営管理」の方法を習得する。 3. 講義や実践企業の実例を参考に、研修員が自国で活用可能な制度や仕組みや経営の考え方を整理する。 4. 研修員が、帰国後の具体的な実践計画を作成する。
研修計画（内容）	1. 講義・討議：「日本的経営の特色」「日本の中小製造業の特色」 2. 視察・懇談：「従業員を育成し、大切に経営」「5Sをベースにしたムダの削減」を実践している企業3社を徹底研究（ケーススタディ） （視点）・お客様から感謝される経営 ・従業員を大切に経営 ・5Sをベースにしたムダの削減 等 3. 日本文化理解：「さぬきうどんづくり体験」、 日本庭園「栗林公園」散策・抹茶体験 4. 演 習：「実践計画」作成 5. 発 表：「実践計画」発表
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	日本企業はなぜ人材育成に重点を置くのか。それは、企業の安定と成長に不可欠だからである。本研修は、「人材（従業員）育成」を第一に考えて経営を実践している四国の中小企業3社を実際に視察し、経営者・経営幹部と懇談し、その経営を徹底研究することで、「従業員を大切に経営」ノウハウを習得する。 それらの企業は、いずれも経営者と従業員との信頼関係が強く、従業員が長く働きやすい職場環境であり、業績も伴っている、いわゆるお手本にしたい「いい会社」である。 最近ではこのような経営の考え方が中小企業を中心に日本全体に広がっており、中南米の日系企業もこのような経営を目指すことで、抱えている諸課題（日系社会の産業縮小やリーダー人材不足など）を解決することに繋がる。 本研修を修了することにより、研修員が帰国後、まず、自らの実践計画に基づき、組織内に人材育成の仕組みや組織運営（経営）の考え方を導入することで、自らがロールモデルとなる。次に、本研修で得られた知見を周りの経営者・経営幹部と共有することで、自社が「いい会社」に変わっていく。そして、周りの経営者・経営幹部の心にも灯を点けるとそれが広がり大きくなり、やがて日系社会が変わっていくことになる。
応募希望者への特記事項	研修は、日本語または英語で行い、日本語の場合は英語で通訳いたします。 また、日本語能力は不問としますが、日常会話ができれば訪問企業の経営者・経営幹部とのコミュニケーションをより深く図ることができます。